

## 経済レポート

# 景気ウォッチャー調査(東海地区:2017年11月)

～ 現状判断DIは3ヶ月連続で上昇 ～

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

12月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、**東海地区の11月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断 季節調整値)**は、前月差4.0ポイント上昇の56.3と3ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差3.3ポイント上昇の53.7となり、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同4.0ポイント上昇の50.5と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月ぶりに上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同1.5ポイント上昇の60.1と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を12ヶ月連続で上回った(注1)。

### 現状判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
17 9	51.3	1.4	51.3	1.6	49.0	0.0	49.6	0.0	47.4	0.7	48.2	0.3	52.3	-1.2	52.7	-0.3
10	52.3	1.0	52.2	0.9	50.4	1.4	49.9	0.3	46.5	-0.9	47.0	-1.2	58.6	6.3	55.9	3.2
11	56.3	4.0	55.1	2.9	53.7	3.3	52.4	2.5	50.5	4.0	50.5	3.5	60.1	1.5	56.3	0.4

**11月の先行き判断DI(2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断 季節調整値)**は、前月差2.0ポイント低下の55.1と8ヶ月ぶりに低下した。原数値では前月差3.4ポイント低下の52.2と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同3.0ポイント低下の51.5と4ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同4.3ポイント低下の53.6と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を8ヶ月連続で上回った。

### 先行き判断DI(方向性)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
17 9	51.7	1.1	51.0	-0.1	51.2	1.4	50.4	0.3	49.7	1.0	49.4	0.3	54.3	2.4	52.3	0.0
10	57.1	5.4	54.9	3.9	55.6	4.4	53.7	3.3	54.5	4.8	53.1	3.7	57.9	3.6	55.0	2.7
11	55.1	-2.0	53.8	-1.1	52.2	-3.4	51.7	-2.0	51.5	-3.0	50.6	-2.5	53.6	-4.3	54.0	-1.0

**現在の景気の水準自体に対する判断DI(季節調整値)**は、11月は前月差4.3ポイント上昇の54.0と2ヶ月ぶりに上昇した。原数値では前月差3.6ポイント上昇の51.6と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を4ヶ月ぶりに上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同5.2ポイント上昇の47.4と2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を44ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同0.2ポイント上昇の60.1と2ヶ月連続で上昇し、中立を示す50を14ヶ月連続で上回った。

### 現状判断DI(水準)

年 月	各分野計(季節調整値)				各分野計(原数値)				家計動向関連(原数値)				企業動向・雇用関連(原数値)			
	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
17 9	50.1	1.3	49.6	1.3	48.7	0.4	48.6	0.4	45.0	1.0	45.5	-0.3	56.3	-0.1	55.0	2.1
10	49.7	-0.4	49.2	-0.4	48.0	-0.7	47.8	-0.8	42.2	-2.8	43.7	-1.8	59.9	3.6	56.4	1.4
11	54.0	4.3	53.2	4.0	51.6	3.6	51.0	3.2	47.4	5.2	48.0	4.3	60.1	0.2	57.2	0.8

内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「緩やかに回復している。先行きについては、人手不足やコストの上昇に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」とまとめ、現状の判断を引き上げ、先行きの判断は据え置いた。

(10月のまとめ)「着実に持ち直している。先行きについては、人手不足や海外情勢に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」

東海経済についての東海地区の景気ウォッチャーの見方は「回復している。先行きについては、物価や燃料コストの上昇、人手不足などへの懸念もあるが、足下の好調さが持続するとの期待が続いている」とまとめられる。

(10月のまとめ)「持ち直している。先行きについては、物価や燃料コストの上昇、人手不足などへの懸念は続いているが、政権の安定による好影響や、季節要因による改善への期待が広がっている」

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるD I (原数値) は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のD I 算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海 = 愛知、岐阜、三重、静岡

南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川

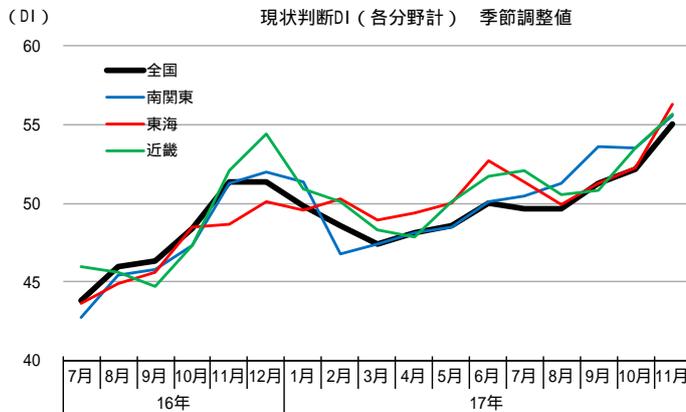
近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

## 1. DIの動向

### (1) 季節調整値の動向

#### 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DIは、前月差4.0ポイント上昇の56.3と3ヶ月連続で上昇した。全国よりやや高く、南関東、近畿とほぼ同水準となった。

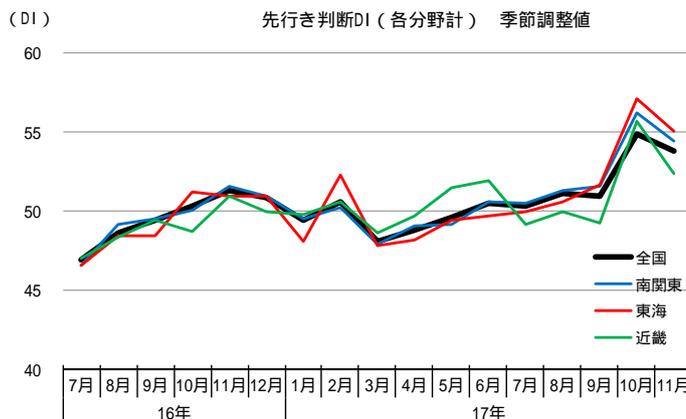


各分野計(季節調整値)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	43.8	42.7	43.6	46.0
	8月	46.0	45.4	44.9	45.6
	9月	46.3	45.8	45.6	44.7
	10月	48.4	47.3	48.5	47.3
	11月	51.4	51.3	48.7	52.1
17年	12月	51.4	52.0	50.1	54.4
	1月	49.8	51.4	49.6	50.9
	2月	48.6	46.8	50.3	50.1
	3月	47.4	47.4	48.9	48.3
	4月	48.1	48.1	49.4	47.9
	5月	48.6	48.5	50.0	50.1
	6月	50.0	50.1	52.7	51.7
	7月	49.7	50.5	51.4	52.1
	8月	49.7	51.3	49.9	50.6
	9月	51.3	53.6	51.3	50.8
	10月	52.2	53.5	52.3	53.5
11月	55.1	55.6	56.3	55.7	

#### 景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DIは、前月差2.0ポイント低下の55.1と8ヶ月ぶりに低下した。近畿より高く、全国よりやや高く、南関東とほぼ同水準となった。

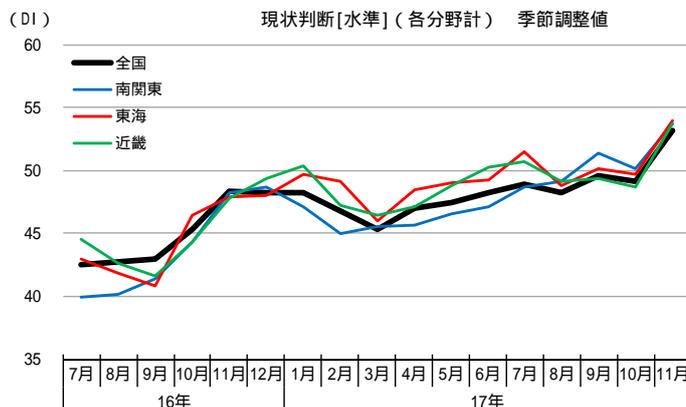


各分野計(季節調整値)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	46.9	46.6	46.6	47.0
	8月	48.6	49.2	48.5	48.4
	9月	49.4	49.5	48.5	49.4
	10月	50.3	50.1	51.2	48.7
	11月	51.3	51.6	51.0	51.0
17年	12月	50.9	51.0	51.0	50.0
	1月	49.4	49.5	48.1	49.8
	2月	50.6	50.2	52.3	50.6
	3月	48.1	47.9	47.8	48.6
	4月	48.8	49.1	48.2	49.7
	5月	49.6	49.2	49.4	51.5
	6月	50.5	50.6	49.7	51.9
	7月	50.3	50.5	50.0	49.2
	8月	51.1	51.3	50.6	50.0
	9月	51.0	51.6	51.7	49.3
	10月	54.9	56.2	57.1	55.7
11月	53.8	54.4	55.1	52.4	

#### 景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DIは、前月差4.3ポイント上昇の54.0と2ヶ月ぶりに上昇した。南関東、近畿、全国とほぼ同水準となった。



各分野計(季節調整値)

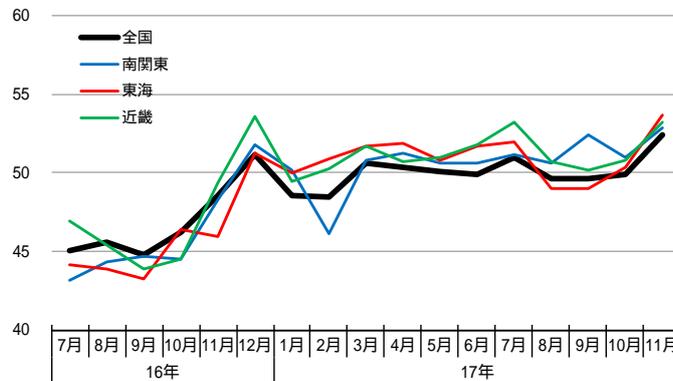
		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	42.5	39.9	43.0	44.5
	8月	42.8	40.2	41.8	42.6
	9月	43.0	41.4	40.8	41.6
	10月	45.3	44.3	46.4	44.3
	11月	48.4	48.3	47.9	47.8
17年	12月	48.3	48.7	48.0	49.4
	1月	48.2	47.1	49.7	50.4
	2月	46.8	45.0	49.1	47.2
	3月	45.3	45.5	46.0	46.5
	4月	47.0	45.7	48.5	47.1
	5月	47.5	46.6	49.0	48.8
	6月	48.3	47.1	49.3	50.3
	7月	48.9	48.7	51.5	50.7
	8月	48.3	49.1	48.8	49.2
	9月	49.6	51.4	50.1	49.4
	10月	49.2	50.1	49.7	48.7
11月	53.2	53.7	54.0	53.7	

## (2) 原数値の動向

### 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI(各分野計)は、前月差3.3ポイント上昇の53.7となり、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。全国よりやや高く、南関東、近畿とほぼ同水準となった。

(DI) 現状判断DI(各分野計)

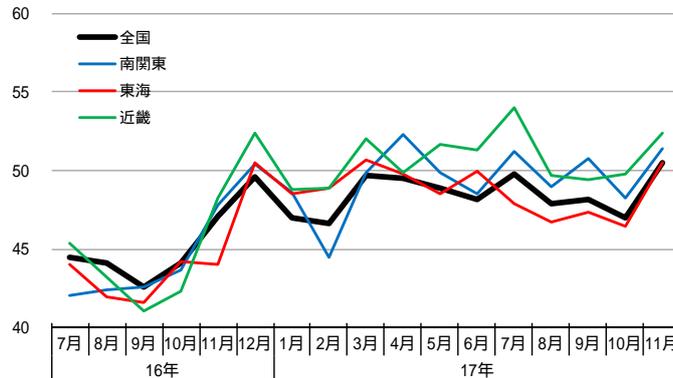


各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	45.1	43.2	44.2	46.9
	8月	45.6	44.3	43.9	45.4
	9月	44.8	44.7	43.3	43.9
	10月	46.2	44.5	46.4	44.5
	11月	48.6	48.3	46.0	49.4
17年	12月	51.2	51.8	51.3	53.6
	1月	48.6	50.2	50.0	49.5
	2月	48.5	46.1	50.9	50.3
	3月	50.6	50.8	51.7	51.7
	4月	50.4	51.3	51.9	50.7
	5月	50.1	50.6	50.8	51.0
	6月	49.9	50.6	51.7	51.8
	7月	51.0	51.2	52.0	53.2
	8月	49.6	50.6	49.0	50.7
	9月	49.6	52.4	49.0	50.2
	10月	49.9	51.0	50.4	50.8
11月	52.4	52.9	53.7	53.2	

家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同4.0ポイント上昇の50.5と2ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月ぶりに上回った。近畿よりやや低く、南関東とほぼ同水準、全国と同水準となった。

(DI) 現状判断DI(家計動向関連)

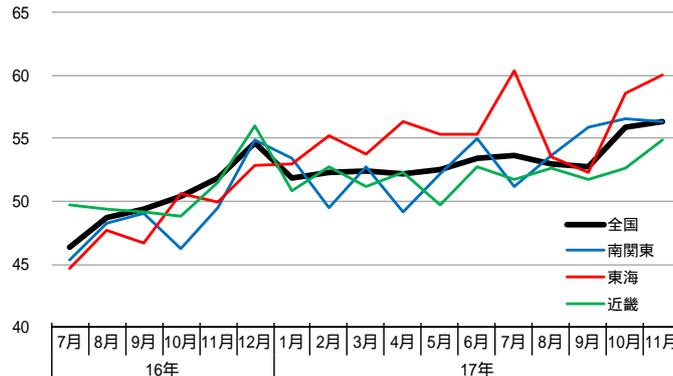


家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	44.5	42.1	44.0	45.4
	8月	44.1	42.4	42.0	43.2
	9月	42.6	42.6	41.6	41.1
	10月	44.1	43.7	44.2	42.3
	11月	47.1	47.8	44.0	48.3
17年	12月	49.6	50.4	50.5	52.4
	1月	47.0	48.6	48.5	48.8
	2月	46.6	44.5	48.9	48.9
	3月	49.7	49.9	50.7	52.0
	4月	49.5	52.3	49.8	49.9
	5月	48.9	49.9	48.5	51.7
	6月	48.2	48.5	50.0	51.3
	7月	49.8	51.2	47.9	54.0
	8月	47.9	49.0	46.7	49.7
	9月	48.2	50.8	47.4	49.4
	10月	47.0	48.3	46.5	49.8
11月	50.5	51.4	50.5	52.4	

企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同1.5ポイント上昇の60.1と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を12ヶ月連続で上回った。南関東、近畿、全国より高い水準となっている。

(DI) 現状判断DI(企業動向・雇用関連)

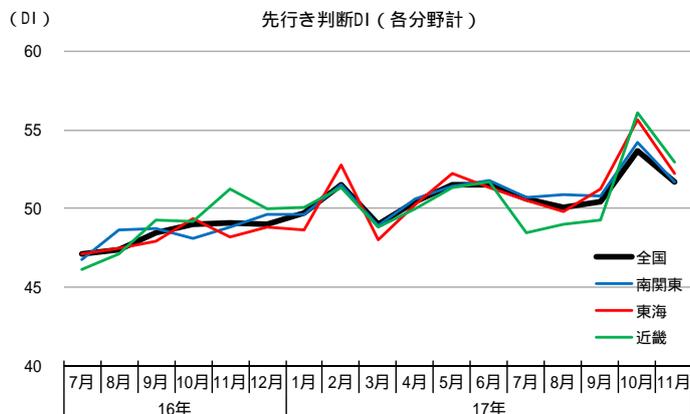


企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	46.4	45.3	44.7	49.7
	8月	48.7	48.3	47.7	49.4
	9月	49.4	49.0	46.7	49.2
	10月	50.4	46.2	50.6	48.8
	11月	51.8	49.5	50.0	51.5
17年	12月	54.7	54.9	52.9	56.0
	1月	51.9	53.4	53.0	50.9
	2月	52.3	49.5	55.2	52.7
	3月	52.4	52.7	53.8	51.2
	4月	52.2	49.2	56.3	52.3
	5月	52.5	52.2	55.3	49.7
	6月	53.4	55.0	55.3	52.7
	7月	53.6	51.2	60.4	51.7
	8月	53.0	53.7	53.5	52.6
	9月	52.7	55.9	52.3	51.7
	10月	55.9	56.6	58.6	52.6
11月	56.3	56.3	60.1	54.9	

## 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

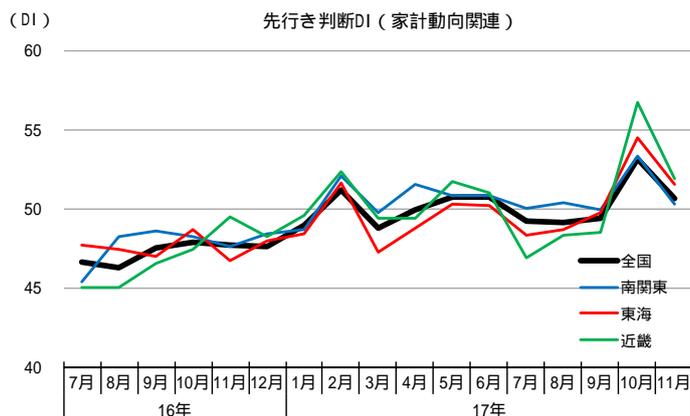
2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計）は、前月差3.4ポイント低下の52.2と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。南関東、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	47.1	46.8	47.1	46.1
	8月	47.4	48.6	47.5	47.1
	9月	48.5	48.7	47.9	49.3
	10月	49.0	48.1	49.4	49.2
	11月	49.1	48.8	48.2	51.2
17年	12月	49.0	49.6	48.8	50.0
	1月	49.7	49.6	48.6	50.1
	2月	51.5	51.5	52.8	51.3
	3月	49.0	48.9	48.0	48.8
	4月	50.4	50.6	50.3	50.0
	5月	51.5	51.4	52.2	51.3
	6月	51.5	51.8	51.3	51.7
	7月	50.6	50.7	50.5	48.5
	8月	50.1	50.9	49.8	49.0
	9月	50.4	50.8	51.2	49.3
	10月	53.7	54.2	55.6	56.1
11月	51.7	51.7	52.2	52.9	

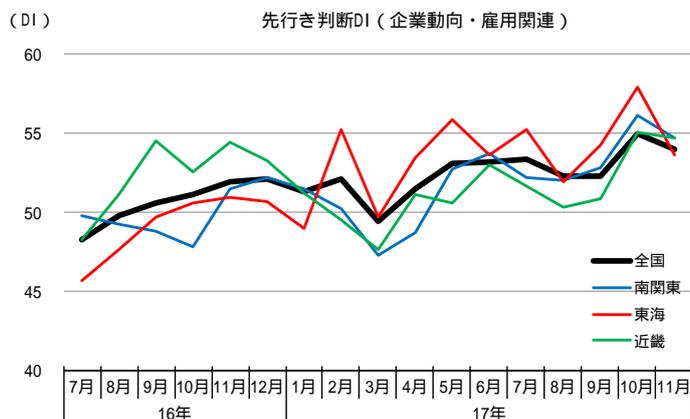
家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同3.0ポイント低下の51.5と4ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。南関東よりやや高く、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	46.6	45.4	47.7	45.0
	8月	46.3	48.2	47.4	45.0
	9月	47.5	48.6	47.0	46.5
	10月	47.9	48.2	48.7	47.4
	11月	47.7	47.6	46.7	49.5
17年	12月	47.6	48.4	48.0	48.2
	1月	48.9	48.7	48.4	49.6
	2月	51.2	52.1	51.6	52.3
	3月	48.8	49.7	47.2	49.4
	4月	49.9	51.5	48.8	49.4
	5月	50.7	50.8	50.3	51.7
	6月	50.7	50.8	50.2	51.0
	7月	49.2	50.0	48.3	46.9
	8月	49.1	50.4	48.7	48.3
	9月	49.4	49.9	49.7	48.5
	10月	53.1	53.3	54.5	56.7
11月	50.6	50.3	51.5	51.9	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同4.3ポイント低下の53.6と3ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を8ヶ月連続で上回った。南関東、近畿よりやや低く、全国とほぼ同水準となっている。

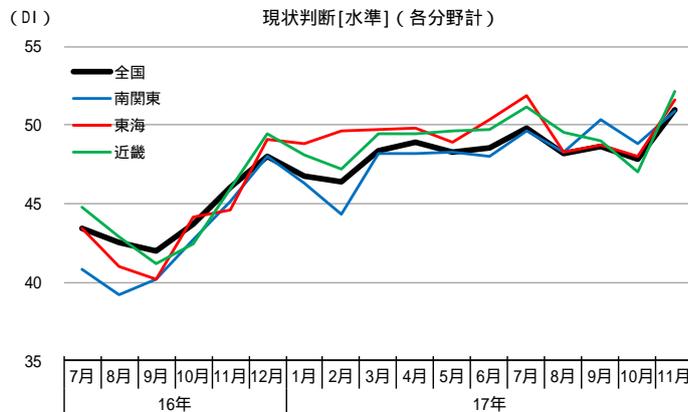


企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	48.3	49.8	45.7	48.3
	8月	49.8	49.3	47.7	51.1
	9月	50.6	48.8	49.7	54.5
	10月	51.1	47.8	50.6	52.6
	11月	51.9	51.5	51.0	54.4
17年	12月	52.1	52.2	50.7	53.3
	1月	51.3	51.5	49.0	51.2
	2月	52.1	50.2	55.2	49.5
	3月	49.4	47.3	49.7	47.7
	4月	51.5	48.7	53.5	51.1
	5月	53.1	52.7	55.9	50.6
	6月	53.2	53.7	53.6	53.0
	7月	53.4	52.2	55.2	51.7
	8月	52.3	52.0	51.9	50.3
	9月	52.3	52.8	54.3	50.9
	10月	55.0	56.1	57.9	55.1
11月	54.0	54.7	53.6	54.7	

## 景気の現状判断（水準）

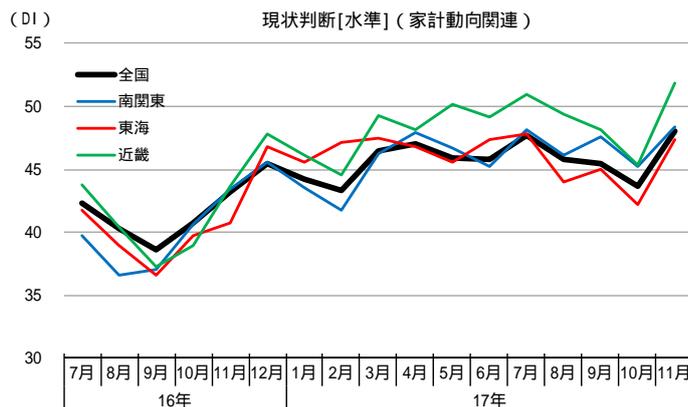
現在の景気の水準自体に対する判断D I（各分野計）は、前月差 3.6 ポイント上昇の 51.6 と 2 ヶ月ぶりに上昇し、横ばいを示す 50 を 4 ヶ月ぶりに上回った。南関東、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	43.4	40.8	43.4	44.8
	8月	42.5	39.2	41.0	42.9
	9月	42.0	40.2	40.2	41.2
	10月	43.7	42.7	44.1	42.4
	11月	46.0	45.1	44.6	45.9
17年	12月	48.0	48.0	49.1	49.4
	1月	46.7	46.3	48.8	48.1
	2月	46.4	44.3	49.6	47.2
	3月	48.4	48.2	49.7	49.4
	4月	48.9	48.2	49.8	49.4
	5月	48.3	48.3	48.9	49.6
	6月	48.5	48.0	50.3	49.7
	7月	49.8	49.6	51.9	51.1
	8月	48.2	48.3	48.3	49.5
	9月	48.6	50.3	48.7	49.0
	10月	47.8	48.8	48.0	47.0
11月	51.0	50.9	51.6	52.1	

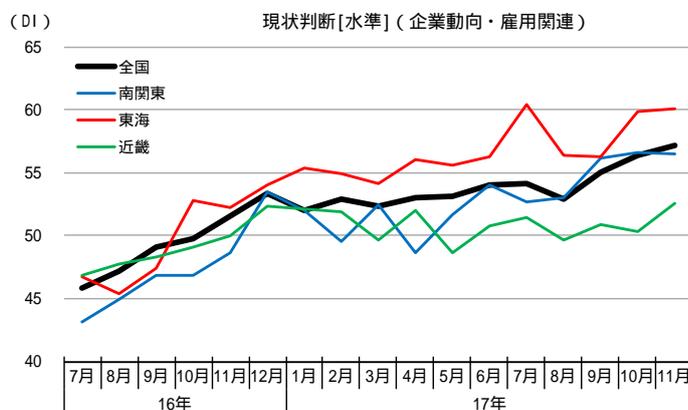
家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断D Iは、同 5.2 ポイント上昇の 47.4 と 2 ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す 50 を 44 ヶ月連続で下回った。近畿より低く、南関東、全国とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	42.3	39.7	41.8	43.8
	8月	40.3	36.6	38.9	40.4
	9月	38.6	37.0	36.6	37.3
	10月	40.7	40.6	39.7	38.9
	11月	43.2	43.4	40.7	43.7
17年	12月	45.4	45.6	46.8	47.8
	1月	44.2	43.5	45.6	46.1
	2月	43.3	41.8	47.1	44.5
	3月	46.5	46.2	47.5	49.3
	4月	47.0	47.9	46.8	48.1
	5月	45.9	46.7	45.6	50.2
	6月	45.8	45.2	47.4	49.1
	7月	47.7	48.1	47.8	50.9
	8月	45.8	46.1	44.0	49.4
	9月	45.5	47.6	45.0	48.1
	10月	43.7	45.2	42.2	45.3
11月	48.0	48.4	47.4	51.8	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断D Iは、同 0.2 ポイント上昇の 60.1 と 2 ヶ月連続で上昇し、中立を示す 50 を 14 ヶ月連続で上回った。南関東、近畿、全国より高い水準となっている。



企業動向関連+雇用関連

		DI			
		全国	南関東	東海	近畿
16年	7月	45.8	43.1	46.7	46.9
	8月	47.2	44.9	45.4	47.7
	9月	49.1	46.8	47.4	48.3
	10月	49.8	46.9	52.8	49.1
	11月	51.6	48.7	52.2	50.0
17年	12月	53.4	53.5	54.0	52.4
	1月	52.0	52.0	55.4	52.1
	2月	52.9	49.5	54.9	51.9
	3月	52.4	52.5	54.1	49.7
	4月	53.0	48.7	56.0	52.0
	5月	53.1	51.7	55.6	48.6
	6月	54.0	54.0	56.3	50.8
	7月	54.2	52.7	60.4	51.5
	8月	52.9	53.0	56.4	49.7
	9月	55.0	56.2	56.3	50.9
	10月	56.4	56.6	59.9	50.3
11月	57.2	56.5	60.1	52.6	

## 2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

### (1) 景気の現状判断

現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。11月調査では、改善方向の回答割合が上昇し、DI（原数値）は2ヶ月連続で改善し50を上回った。

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2016年11月調査	5	29	132	54	11	231
12月調査	5	53	113	40	6	217
2017年1月調査	2	47	133	37	7	226
2月調査	6	52	120	38	9	225
3月調査	3	53	129	36	4	225
4月調査	4	52	127	31	6	220
5月調査	8	46	128	39	8	229
6月調査	5	49	138	33	5	230
7月調査	5	60	124	41	5	235
8月調査	3	45	128	46	7	229
9月調査	2	45	132	42	8	229
10月調査	4	58	112	38	12	224
11月調査	3	72	119	32	6	232

#### 【家計動向関連】

改善方向のコメントでは、売れ行き的好調を指摘するものが多い。高額品が売れ、客単価も上昇しているようだ。

- ・企業は業績好調で景況感も良く、ギフトや高級商材にも手ごたえがある。(一般小売店[高級精肉]企画担当)
- ・例年より寒く、冬物衣料や雑貨等が活発に動いている。インバウンドや株高等を背景とした高額品の需要が非常に強く、売上を押し上げている。(百貨店経営企画担当)
- ・来客数、客単価共に増加している。(スーパー総務担当)
- ・客からは、株価の上昇や車の購入等、景気の良い話を聞く。(その他専門店[貴金属]営業担当)
- ・世間が値上げモードになり、客単価も上昇している。(一般レストラン従業員)

先月は台風など天候要因が景況感の引き下げに働いたが、今月は天候要因がマイナスに作用することはなかったようだ。

- ・10月は2度の台風で来客数が減少し、当地域の被害も多かったが、その反動で11月は来客数が増加している。(一般小売店[土産]経営者)
- ・朝晩に加え日中の冷え込みも影響し、アウターを中心に冬物衣料の動きが良い。肌着、雑貨や靴も、年始へ向けて早めの買換えがあるのか、客の購買意欲は高まっている。(衣料品専門店[紳士服洋品]売場担当)
- ・前月は週末の台風等、天候に恵まれなかったが、今月は落ち着いている。(一般レストランスタッフ)

一方で、現状維持・悪化方向のコメントでは、低い客単価、節約志向を指摘するものも多い。

- ・客単価が低く、販売量や売上の増加につがっていない。(商店街代表者)
- ・低価格中心の販売状況である。ここ数か月はこのような状態が続き、低値安定である。(商店街代表者)
- ・相変わらず客足は安い店に流れ、お手上げの状況である。(理容室経営者)

地域間、職種間の格差を指摘するコメントも見られる。

- ・景気は横ばいで変わっていない。都会と地方の市町ではあまりにも差が大きい。都市ターミナル駅前の開発で、その周辺は大にぎわいである。それに比べると当地域はどんどん寂れている。大きなアウトレットはあるが、近隣には何の恩恵もない。その近くに大型ショッピングモールの計画があり、地域の商店街は全滅するかもしれない。(一般小売店[薬局]経営者)
- ・11月の景気も変わらない。メーカーは円安で輸出が増加し景気は良い。身近なところでも、輸出メーカーに係っている企業や中堅企業では人手不足で困っている。大半の消費者は相変わらず所得が上昇せず、景気が良いのは輸出メーカーと公務員である。寒さの訪れが早く冬物商材は売れているが、全体的には小売業の売上は伸びず、消費にも格差が出てきている。(スーパー経営者)

「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。景況感の改善が売上げの好調につながっているとの声もあれば、新車発表もなく不調との声もある。企業の好調を反映してか、社用車の買い換えが増えているようだ。

現状判断 (回答者数)	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	回答 合計
2016年11月調査	0	1	6	3	0	10
12月調査	0	2	6	1	0	9
2017年1月調査	0	4	4	1	0	9
2月調査	0	4	3	2	0	9
3月調査	0	3	6	1	0	10
4月調査	0	0	9	0	1	10
5月調査	1	1	4	1	0	7
6月調査	1	1	5	2	0	9
7月調査	0	2	7	2	0	11
8月調査	0	3	3	3	0	9
9月調査	0	0	9	0	1	10
10月調査	1	3	3	3	0	10
11月調査	1	2	5	1	0	9

- ・10月も良かったが、11月もよく売れている。来客数、問い合わせ数も多い。景気が良くなれば売れると期待して長い間在庫で持っていた車も売れた。新しく在庫した車も売れており、11月は絶好調である。(乗用車販売店従業員)
- ・客の購買意欲は高まっている。景気上昇ムードが全体をけん引している。新型車種も出てきて需要も高まっ

ている。(乗用車販売店経営者)

- ・年末を控えて、法人客では社用車の買換えが増えている。景気は良いが、個人にまでは波及していないのか、個人客の購入意欲はさほど高くない。前年並みの受注量だが、法人客が大半を占めており、個人客の購入が回復するのはまだ先である。(乗用車販売店従業員)
- ・新車販売台数は全社で前年を下回っており、11月は前年比85%前後で推移している。新型車種の発表もなく、前月よりも厳しくなっている。(乗用車販売店従業員)

### 【企業動向関連】

製造業を中心に生産、輸出、設備投資等の好調を指摘するコメントが多く見られる。価格の上昇にもつながっているようだ。

- ・冬物商材の出荷が活発で、生産が追い付かない。今シーズンより稼働した新工場で生産する新商品が、高い評価を得ている。(食料品製造業経営企画担当)
- ・販売価格が上昇している。デフレ脱却とまではいえないが、適正価格の商品はすぐに売れている。購買意欲は回復し、納得できる商品が出るのを待っている消費者が多くなっている。(化学工業人事担当)
- ・客先の業界では年末に向けて設備投資がやや多くなっている。当社も新製品をリリースしたため、11月は良くなっている。(電気機械器具製造業経営者)
- ・通信関連機器の製造部門では、光関連機器の受注が特に好調で、中国の生産工場は2交代制となっている。(電気機械器具製造業総務担当)
- ・3か月前と同様に半導体向け需要は好調である。この状況は当面続く。(化学工業営業)
- ・引き続き受注は好調な状況が続いている。できる限り対応しているが、生産が手一杯という状況が続いている。(電気機械器具製造業経営者)

企業動向関連のコメントでも2極化を指摘するものがある。

- ・金は使われており総じて景気は悪くない。景気をけん引しているのは賃金が高い層である。飲食店や洋品店等はネットにより人気のあるなしが決まり、人気店には懐に余裕ある人が集中して席が空いていない一方、人気のない店は客がいらないという2極化が顕著である。(化学工業総務秘書)
- ・大企業の業績は堅調であるが、中小企業の業績は厳しい。中小企業は、大企業との取引価格が上がらず、コスト面では人件費、電力料金、材料費等が上昇し、収益性が厳しい状況である。(公認会計士)

### 【雇用関連】

求人増、求職減で人手不足の状況が続いている。

- ・求人数が増加している一方で求職者数は減少しており、有効求人倍率は、前年同月比で0.36ポイント上昇し3.07倍となっている。(職業安定所職員)
- ・求人数増加と求職者数減少の動きが再度鮮明になってきている。人材派遣会社の求人数は前年同月比で2倍に急増し、人手不足が際立っている。(職業安定所職員)
- ・求人に対する応募数が相変わらず少ない。求職者はどこにいったのか分からないという声も聞いている。(新聞社[求人広告]営業担当)

## (2) 景気の先行き判断

先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。11月調査では、改善方向の回答割合が低下し、DI(原数値)は悪化した。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年11月調査	3	46	123	49	10	231
12月調査	3	45	116	45	8	217
2017年1月調査	3	41	129	46	7	226
2月調査	6	59	120	34	6	225
3月調査	2	43	123	49	8	225
4月調査	2	46	131	35	6	220
5月調査	3	53	139	29	5	229
6月調査	3	48	142	32	5	230
7月調査	1	48	146	35	5	235
8月調査	1	47	134	43	4	229
9月調査	3	47	144	28	7	229
10月調査	5	74	117	22	6	224
11月調査	5	59	127	33	8	232

**【家計動向関連】**

前月調査で目立った株高への期待は落ち着いてきている。改善方向のコメントを見ると、足下の景況感改善の持続をイメージしたものが多し。現状の動きに手応えを感じている模様だ。

- ・好調な企業業績に伴って所得増加の期待が膨らんでおり、こうした消費者心理によって、一層の消費の拡大が見込まれる。(百貨店経理担当)
- ・肌感覚として、景気回復の動きは底堅く感じる。(一般小売店[土産]経営者)
- ・北朝鮮問題のリスクはあるが、景況感は以前より少し良くなっている。年末年始は更に良くなる。(百貨店販売促進担当)
- ・前月から2か月連続で好調を維持しており、一過性ではない。バレンタイン商戦や入学・入社の時期になってくため、ギフト需要にも期待がもてる。(衣料品専門店[紳士服洋品]売場担当)

一方で、節約志向が根強いことから、先行きはあまり期待できないとの声も多い。特に個人客の節約志向が強いようだ。

- ・客の動きをみていると、必要な物以外は買わない傾向がずっと続いている。ついで買いが少ないため、先行きも売上は変わらないと見込まれる。(商店街代表者)
- ・依然として財布のひもは固く、あまり期待はできない。(一般小売店[生花]経営者)
- ・来客数は減少傾向が続く。売上は、個人客の財布のひもは固いが、法人客は少し経費を使えるようになってバランスしている。一部の優良な法人客によって支えられ、3か月先の売上も現状維持である。(一般小売店[贈答品]経営者)

高齢化の進展が消費の低迷につながるとの声もある。

- ・先行きも輸出は伸び続けるが、個人消費は相変わらず伸びない。高齢者が増え続け通院する人も増加するので、病院は忙しくなる。医療費が増加すれば、年金生活者も現役世代も負担が増えて手取りの収入が減少するので、消費に金が回らなくなる。(スーパー経営者)
- ・客の高齢化で販売量が伸びない。大手小売業との接客サービスの格差も広がっている。(コンビニ店長)

乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、以下のとおりである。初売り、年度末商戦への期待も見られるが、あまり期待できないとの声もある。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	回答 合計
2016年11月調査	0	2	7	4	0	13
12月調査	0	5	6	2	0	13
2017年1月調査	0	3	7	3	0	13
2月調査	0	3	4	5	0	12
3月調査	0	1	3	8	0	12
4月調査	0	2	6	3	1	12
5月調査	0	2	8	1	0	11
6月調査	0	2	7	2	0	11
7月調査	0	2	8	2	0	12
8月調査	0	5	5	0	0	10
9月調査	0	4	7	1	0	12
10月調査	0	7	5	0	0	12
11月調査	1	4	4	2	0	11

- ・初売り商戦が始まる時期となる。そこから年度末商戦にしっかりつなげていきたい。(乗用車販売店経営者)
- ・国内自動車販売は、自動車メーカーの不正検査問題で全体的に少し冷え込んだが、これから年度後半に向けては回復していく。(乗用車販売店総務担当)
- ・しばらく新型車種の発売もなく、増販が見込める要素がない。年末に向けてはかなり厳しい状況である。(乗用車販売店従業員)
- ・年末から決算を迎える時期には、今のところ新型車種の予定がないので厳しくなる。(乗用車販売店販売担当)

#### 【企業動向関連】

改善方向のコメントを見ると、家計動向関連同様、足下の景況感改善の持続をイメージしたものが多。

- ・特別な不安要因もなく、現在の株価がこのまま維持される状況が続けば、景気は更に上向く余地がある。(化学工業人事担当)
- ・半導体向け需要は3か月前と同様に好調である。この状況は当面続く見込みである。
- ・まずまず良い状況がしばらく続く。海外の案件も堅調で、スクラップの値段もやや上昇傾向にある。(輸送用機

械器具製造業総務経理担当)

供給面の制約からこれ以上の改善は望めないとの声もある。

- ・生産能力一杯の状況が続いているため、これ以上良くなることはなく、しばらくは現状維持が続く。ただし、秋口までという話もあるため、来年度以降は先行きが不透明である。(電気機械器具製造業経営者)
- ・要員不足が顕著で増員も見込めないことから、案件の有無にかかわらず売上増加は見込めない。(その他サービス業[ソフト開発]社員)

燃料費、人件費などコストの上昇により収益圧迫を懸念する声もある。

- ・原油価格がじわじわと値上がりしている。人手不足によるコスト増加と燃料コストの増加が見込まれ、引き続き厳しい経営を強いられる。(輸送業従業員)
- ・年末の繁忙期に向けて、パート社員の時給や派遣コストの上昇が見込まれ、経営コストの増加は避けられない。物量増加に対応できる人員の確保にも大きな不安がある。(輸送業経営者)

#### 【雇用関連】

人手不足が深刻化しており、求職者には好環境、企業には厳しいという状況が続きそうだ。

- ・求人数は着実に増えており、今より条件が良いところを希望する求職者の選択肢が増えることで、景気回復につながっていく。(職業安定所職員)
- ・求職者の数は変わらないが、直接雇用の内定が複数出ることも多く、求職者側の選択の幅が大きくなってきている。(民間職業紹介機関窓口担当)
- ・求人数は増加傾向で人手不足感が続いている。中堅、大企業はまだ良いが、零細企業では社員の採用が難しく、廃業も出ている。(職業安定所職員)
- ・人手不足が顕著で人材採用が思うようには進まず、企業では生産性が大きく低下する。(人材派遣会社社員)

## 景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）
  - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
  - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
  - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
  - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
  - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
  - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照下さい。

(お問い合わせ) 調査部 TEL:03-6733-1070(東京) / 052-307-1106(名古屋) E-mail: chosa-report@murc.jp